



地球環境を脅かす

プラスチックごみを減らそう

海にはプラごみがいっぱい

世界中で大量のプラスチックごみが海に流出しています。北太平洋には、海流で運ばれたプラスチックごみが集中する海域（太平洋ごみベルト）があり、その広さは日本の国土面積の約4倍。地球環境に様々な影響を及ぼす海洋プラスチック問題は深刻です。

海洋生物を危機に

海鳥や海亀、鯨などがプラスチックをエサと間違えて食べる、体に絡まるなどして、その生存環境が危機にさらされています。

人の健康にも影響

海中のプラスチックはやがて微細な破片（マイクロプラスチック）となり、魚などの体内に取り込まれます。食物連鎖の過程でプラスチックの有害物質が濃縮され、最終的には人間の健康被害につながる恐れがあります。

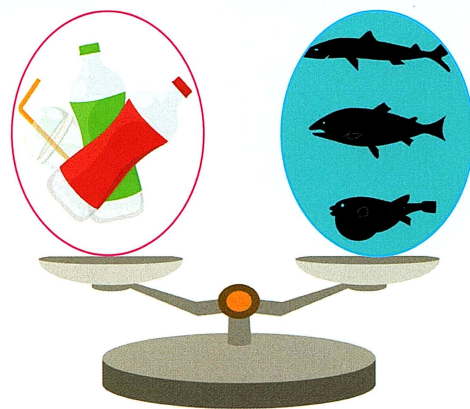


地球温暖化を加速

太陽光や水にさらされているプラスチックからは温室効果ガスのメタンが発生します。また、焼却されるときには大量の二酸化炭素が放出されます。

増え続ける海洋プラスチックごみ

大量生産でき、軽くて丈夫なプラスチックは、あらゆる場面で便利に使われ、増加の一途をたどってきました。しかし一方で多くは使い捨てられ、それらは最終的に海へと行き着きます。すでに世界の海にはプラスチックごみが1億5千万トン存在し、そこへ新たに年間8百万トン(ジャンボジェット機5万機の重量)が流入すると考えられています。このままだと、2050年には海洋プラスチックごみは海の魚の量を上回ると予測されています。



2050年には魚の量を上回る

資源循環、プラごみ排出ゼロ社会へ

海洋プラスチック問題は、世界や国、自治体等の対処方針のもと、事業者(提供する側)、消費者(使う側)の双方が責任を分かち合い、それぞれの立場でできることを緊急に実行することが重要です。

